

短期予報解説資料 2025年12月1日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

① 急速に発達中の低気圧が宗谷海峡付近を北東進。寒冷前線が北日本を通過して本州の日本海沿岸。前線の南側では850hPa300K以上の暖湿気が入り、大気の状態が非常に不安定で、活発に発達、強い雨や激しい雨を解析。また、北日本を中心に南のち西寄りの風が強く、最大20m/s前後を観測。

② 前線が沖縄の南～小笠原近海に停滞。上層トラフの接近により、前線の北の先島諸島周辺でも対流雲が活発化。雷も検知。

③ 韓国では1日朝にかけて5～

10kmの視程の地点があったが予測は過大。九州にかけて下層は発散場で、視程悪化はほぼない。

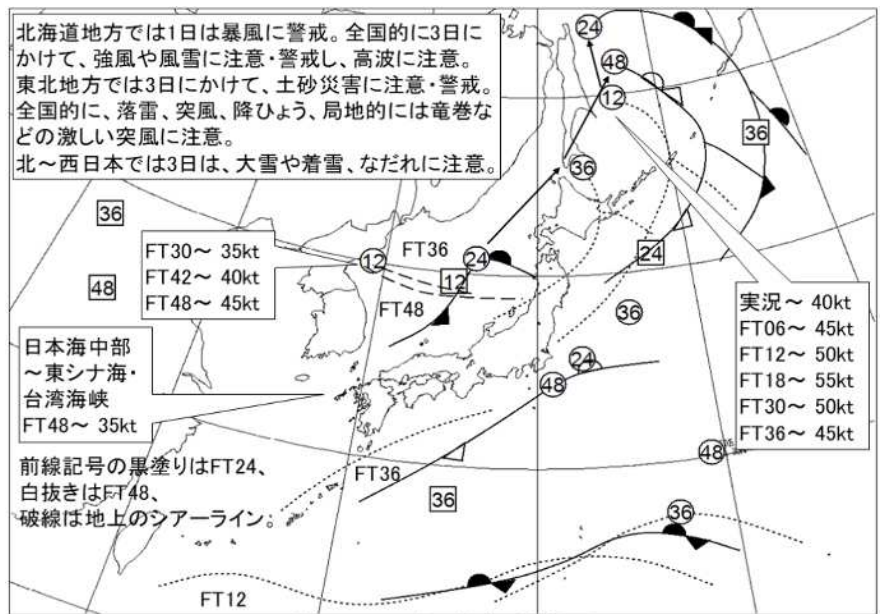
2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧・前線に伴い、北日本と北陸地方では、1日の目先は、落雷・突風・降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。強風、高波にも注意。北海道地方では暴風に警戒。
- ② 2日は、500hPa 5340m付近のトラフに対応する低気圧が発達しながら日本海を北東進し、前線が北日本を中心に通過する。北日本と北陸地方では、2日は、落雷・突風・降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。前線に近い西日本太平洋側でも、落雷・突風・急な強い雨に注意。
- ③ 3日は、朝までに500hPa 5580m付近の強風軸に対応する前線を伴った低気圧が関東沖に発生して、発達しながら日本の東を北東進する。また、大陸にある500hPa 5160m付近で-39℃以下の寒気を伴うトラフが中国東北区で深まって北日本に接近する。地上では、日本付近は西高東低の冬型の気圧配置となり、寒気団内の収束帯が日本海に発生し、徐々に南下する。
- ④ 2項③の低気圧や前線南側の下層暖湿気や上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い強い雨や激しい雨の降る所がある。これまでの雨で地盤の緩んでいる所では少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。また、2項③の収束帯にあたる日本海側の地方では降水量が多くなるので留意。東北地方では3日にかけて土砂災害に注意・警戒。南西諸島では1日は、北～西日本では3日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。3日は、本州付近に真冬並みの寒気が流入し大雪となる所がある。北～西日本では3日は、大雪や着雪、なだれに注意。また、強い風や非常に強い風が吹き波が高くなりしける所がある。北～東日本では3日にかけて、西日本と南西諸島では3日は、強風や風雪に注意・警戒し、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：北海道4、東北・北陸3m。④ 高潮(明日まで)：東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図